

国際研修(コ05)

目 的 近年日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業で国内外において研修を、政府間機関ICCROMや各国機関と共催、あるいは各国の関連機関の協力を得て開催することで、保存修復関係者への技術移転、情報共有を行う。

- 成 果**
1. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復 (Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」を開催した。(2018(平成30)年5月28日～6月13日)
主催：東京文化財研究所・ICCROM・INAH、会場：CNCPC-INAH(メキシコ・メキシコシティ)、参加者：11名(アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、キューバ、スペイン、パラグアイ、ペルー、メキシコ)、その他オブザーバー4名
 2. ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復 (Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk)」を開催した。
主催：東京文化財研究所、会場：ベルリン国立博物館アジア美術館(ドイツ・ベルリン)
ア) 基礎編「日本の紙本・絹本文化財」(2018(平成30)年7月4日～6日)
参加者：12名(アメリカ、イギリス、イタリア、スペイン、ドイツ、ハンガリー、ベルギー、ポーランド、リトアニア)、その他オブザーバー1名
イ) 応用編「掛軸の修復」(2018(平成30)年7月9日～13日)
参加者：9名(アメリカ、イタリア、中国、ドイツ、フィンランド、ポーランド)、その他オブザーバー1名
 3. ワークショップ「染織品の保存と修復 (Workshops on Conservation of Japanese Textile)」を開催した。
主催：東京文化財研究所・国立台湾師範大学、会場：国立台湾師範大学(台湾・台北)
ア) 基礎編「日本の染織品文化財」(2018(平成30)年8月8日～10日)
参加者：9名(アメリカ、スウェーデン、台湾、日本、フィリピン、ベルギー)
イ) 応用編「日本の染織品の保存修復」(2018(平成30)年8月13日～17日)
参加者：6名(アメリカ、スウェーデン、台湾、日本、フィリピン)
 4. 国際研修「紙の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Paper)」を開催した。(2018(平成30)年8月27日～9月14日)
主催：東京文化財研究所・ICCROM、会場：東京文化財研究所他
参加者：10名(アルゼンチン、イギリス、オーストラリア、カナダ、ザンビア、デンマーク、フィジー、フランス、ブータン、ポーランド)
 5. ワークショップ「漆工品の保存と修復 (Workshop on Conservation and Restoration of Urushi Objects)」を開催した。(2018(平成30)年11月26日～30日)
主催：東京文化財研究所、会場：ケルン市博物館東洋美術館(ドイツ・ケルン)
参加者：6名(アメリカ、イギリス、カナダ、ドイツ、ノルウェー、フランス)

- 刊行物**・『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』東京文化財研究所 18.12
・『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』東京文化財研究所 19.1
・『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』東京文化財研究所 19.2
・『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2018』東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○加藤雅人、中山俊介、後藤里架、五木田まきは、元喜載、小田桃子(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池理予(無形文化遺産部)、三本松俊徳、小田切真梨、石川絵梨子(以上、研究支援推進部)、石井美恵、大河原典子、杉山恵助(以上、客員研究員)